

- 鳥取西部農協ブロッコリー部会は平成27年度に面積467ha、販売額14億円と過去最高の実績を達成した。しかし、**収穫作業の負担軽減**や、平成28年の**長雨台風による甚大な気象災害**を受けるなど課題が残されていた。
- そこで、**平成30年度より生産部と関係機関が連携して新たながんばる地域プランを実施**し、出荷量70万ケース(令和4年)を目標として強い産地づくりを進めた結果、**令和元年度は大山町内ブロッコリー出荷量71万ケース(推計)を達成した。**

具体的な成果

普及員の活動内容

1 モノづくり

・台風長雨など災害からの防災減災の意識が高まり、**全農家の42.7%が排水対策を実施**した。その結果、湿害回避の効果が認められ、秋冬ブロッコリー(令和元年9月～翌年1月)の**出荷量は前年同期比116%**となった。

1 モノづくり支援

・平成25年度より高畝栽培、ハーフソイラ等の排水技術の実証を重ねてほ場条件に対応した排水対策を整理し、**令和元年度に『排水改善の手引き』を作成・配布**して講習会で排水対策を強力に啓発した。

2 環境づくり

・**令和2年に電動収穫台車が完成し、販売開始に至った。**その結果、**2戸が導入予定であり、地域内の関心が高まりつつある。県中部でも3戸が導入を予定**している(令和2年7月時点)。

2 環境づくり支援

・平成30年度に実施した労働軽減対策に関するアンケートで、手押し式収穫台車の動作性が課題となった。そこで、生産者等で構成する**「作業負担軽減PT」が発足し、民間企業と連携して電動収穫台車の開発に着手し、収穫作業の負担軽減支援を行った。**



写真1 電動収穫台車の展示会

3 人づくり支援

・育苗技術など熟練技術継承のため、令和元年に部会青年部の育苗研修会の開催支援を行った。

3 人づくり

・青年農業者について、熟練農業者の育苗技術の継承を図り、技術向上に繋がられた。

4 ブランドづくり

・地域団体商標認証、GI認証に次ぐ第3のブランド化の取組となる**JGAP認証に向け、平成30年から研修会開催等を支援した。**

4 ブランドづくり

・ブランド強化に向けて、**3農場が大山町初となるJGAP認証を取得した。**

今後の普及活動に向けて

1 排水対策の実施農家率は50%弱のため、講習会等で引き続き排水対策を啓発する。

2 電動収穫台車の導入を図るとともに、導入効果を検証する。

3 関係機関と連携してJGAP・GI等を活用したブランド強化を支援する。

写真2 JGAPキックオフ会の様子

